

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報		事業番号	0116/201005/04/00	事業の種類	5	
年度	19	事務事業名	資源ごみ集団回収奨励金	作成日	平成21年1月20日	
予算事業名	資源ごみ集団回収奨励金		担当部課名	環境課		
政策名	環境にやさしい、うるおいのあるまちづくり		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
施策名	循環型社会の形成		無	無	無	
根拠法規及び関連法規	相生市資源ごみ集団回収奨励金交付要綱					
事業の目的	誰のために(具体的に)	集団回収を実施している団体				
	誰(何)を対象として	集団回収を実施している団体				
	意図(どのような状態にしたいのか)	資源の有効利用及び環境問題意識の向上により、ごみ減量が推進される。				

2 事業の概要 Do

実施の概要	市内の子供会、PTA等の団体で資源ごみの集団回収を定期的実施した団体に対し奨励金を交付する。 1kgあたり3円(20年4月より1kgあたり7円 → 3円に変更)					
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	団体数	団体	31	33	35	35
	収集量	kg	589,540	585,935	656,455	600,000

3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.100	0.100	100.0	0.100	100.0	0.100	100.0	
	臨時職員			-		-		-	
支出内訳	人件費	1,846,208	1,573,434	85.2	1,609,685	102.3	1,558,772	96.8	
	事業費	4,541,420	4,101,545	90.3	4,595,185	112.0	1,800,000	39.2	
	合計	6,387,628	5,674,979	88.8	6,204,870	109.3	3,358,772	54.1	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-	1,900,000	#####		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-	2,695,185	#####	1,800,000	66.8	
	一般財源	6,387,628	5,674,979	88.8	1,609,685	28.4	1,558,772	96.8	
合計	6,387,628	5,674,979	88.8	6,204,870	109.3	3,358,772	54.1		

4 評価指標

【有効性】

指標名1	助成金								
指標説明(式)	資源ごみ集団回収助成金								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	目標	3,850,000	3,850,000	100.0	3,850,000	100.0	1,800,000	46.8	
	実績	4,126,780	4,101,545	99.4	4,595,185	112.0			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

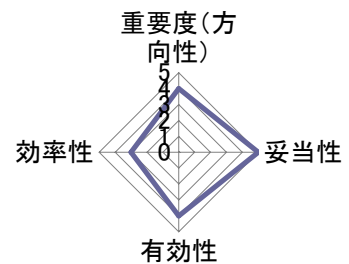
指標名1		新聞・雑誌の回収割合							
指標説明(式)		集団回収量÷全体回収量							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
%	実績	40.6	40.4	99.5	47.4	117.3	48.0	101.3	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	市民ニーズ	ごみ減量化・再資源化等に対する市民ニーズは高まっている。	5	5
有効性	成果目標(改善)達成度	市の直接回収及び集団回収等によりリサイクル率の向上につながっている。	4	4
効率性	手段の最適性	市の直接回収との二重投資とも思われるため、見直しの必要がある。	3	3

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	市の直接回収との二重投資とも思われるため、見直しの必要がある。(20年度より奨励金を7円から3円に変更)



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	環境美化、環境教育の推進を図ることにより、回収量が増えている。
H19→H20予算反映額		△2,050千円

(2) 20年度の実施方針

市の直接回収との二重投資とも思われるため、奨励金の額を7円から3円に減額したが、今後においては資源ごみの拠点づくりを目指すための事業として見直しを図る。

検討の有無	-
総合指標	22.5